



芸術文化のまちづくりゼミ 公共ホール編

指定管理者制度の ‘裏側’から見た公共ホール ～事業予算ゼロの功罪!?～

<出口 亮太氏プロフィール>

1979年長崎市生まれ。2015年に若干35歳で長崎市チトセピアホール館長に就任。先鋭的な企画を外部資金に頼らず独立採算で実施する事業計画が、指定管理者制度下の地方中小規模館の先進的な運営スタイルとして注目を集める。近年ではお隣の公共施設、大学や医療福祉機関、NPOとも協働事業を展開しつつ、現場の知見をもとにしたホール運営についての講義を各地で行う。活水女子大学非常勤講師（舞台芸術論）。



<大澤 寅雄氏プロフィール>

(株)ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室主任研究員、NPO法人アートNPOリンク理事、九州大学ソーシャルアートラボ・アドバイザー。2013年に福岡県糸島市に移住し、地域文化を生態系として観察する「文化生態観察」を実践中。地元アーティストの主導で低予算のわりには全国に知られている糸島国際芸術祭『糸島芸農』実行委員メンバー。



2019年5月18日(土)

14:00~16:30

大野城まどかぴあ

小ホール

(福岡県大野城市曙町 2-3-1)

定員 100名

(申込先着順)

導入から15年を経過した指定管理者制度。「経営の効率化」に目が行きがちで、公共ホールにとって課題が多いともいわれています。

そんななか、“事業予算ゼロ”でも独立採算でユニークな事業を連発する長崎市チトセピアホール・出口亮太館長の動向に、全国的な注目が集まっています。しかし・・・「予算ゼロで事業をやっているということが、一体どういうことなのか、掘り下げて考えるべきでは？」と鋭い視線を投げかけるのが、気鋭の文化政策研究者・大澤寅雄氏。今回の「ゼミ」は、出口館長の先鋭的なホール運営のお話に加え、「単に『効率化』という文脈に絡め取られずに『公共ホールの使命とは何か』『公共とは何か』という本質に突っ込んでいく」と意気込む大澤氏と一緒に、チトセピアホールを徹底解剖。公共ホールのあり方を指定管理制度の“裏側”から考えます。

*後援：日本アートマネジメント学会九州部会

アートサポートふくおか

福岡市博多区寿町 3-5-22-806

TEL 090-7462-1657

FAX 092-591-6517

メール office@as-fuk.com

代表：古賀 弥生

http://www.as-fuk.com

《参加費》

1,000円(当日、受付で申し受けます)

《申込み方法》

右のアドレスへメールで下記をご連絡ください。

①お名前 ②(あれば)ご所属 ③参加の動機 ④当日も連絡がつくメールアドレス、電話番号など